

「非認知的能力とはいかなるものか」

— 求められるものと求めるもの —

話題提供者 伊集院理子（お茶の水女子大学附属幼稚園）佐々木晃（鳴門教育大学附属幼稚園）

指定討論者：中澤 潤（千葉大学） 企画者 五十嵐市郎（宇都宮大学教育学部附属幼稚園）

司会者 五十嵐市郎（宇都宮大学教育学部附属幼稚園）

I 企画趣旨

五十嵐市郎（宇都宮大学教育学部附属幼稚園）

現在の幼稚園教育要領には「非認知的能力」という言葉は見られない。しかし、幼稚園教育は修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる「心情・意欲・態度」を大事に育もうとしてきたがこのことと「非認知的能力」は重なる部分が多いと考えている。全国国立大学附属幼稚園では過去、「協同して遊ぶことに関する指導」「多様性と関連性のある体験を通して幼児期の学びを深める」について文科省の委託研究をうけ研究を深めてきた。今回この研究成果を基盤に「科学的思考力」「感性・表現力」として取られた事例を分析することで「自尊心」「共感性」「粘り強さ」などのいわゆる「非認知的能力」と言われている力が、入園から小学校1～2年生までの間の時期にどのように生まれ、身に付けていくのかを、文字・数・思考等に代表される「認知的な能力」等とどのように関連しているのか、また「非認知的能力」を導き出す環境構成や援助のあり方とはどのようなものなのかを明らかにしていくために企画したものである。

II 話題提供

話題提供①「感性・表現の視点から幼児期の非認知的な能力を考える」

伊集院理子（お茶の水女子大学附属幼稚園）

「非認知的な能力」「社会情動的スキル」という言葉が、経済学・教育経済学の研究から急に脚光をあびるようになり、それとともに就学前教育の重要性に注目が集まるようになってきた。日本の幼児教育は、「認知的な能力」の前提にある「心情・意欲・態度」をこれまでも重視してきた。OECDで重視されている「忍耐力」「協調性」「自尊心」を入園したばかりの幼児に身につけるよう期待することができないことは自明である。幼児期ならではの「非認知的な能力」があるはずである。

そこで、「感性・表現」の窓口から全国国立大学附属幼稚園49園の事例を多数集め、具体的な姿を分析・考察する中で、幼児期の「非認知的な能力」のキーワードを抽出した。集まったキーワードを時期ごとに集約してみた。各時期のキーワードとして多くあげられたものは、集団生活に出会う時期（第Ⅰ期）「安心・安定」「能動性」「自発性」「観察」等、自己発揮する時期（第Ⅱ期）「連帯・つながり」「没

頭」「継続」「こだわり」等、人間関係が深まる時期（第Ⅲ期）「挑戦」「信頼感」「所属感」「協同性」「目的」等、児童期「観察」「受容」「成長の喜び」「発見の喜び」等であった。これらの結果を受けて、「非認知的な能力」が育まれる道筋について、事例をあげながら考えていきたい。

話題提供②「非認知的能力に支えられて発達する幼児の科学的思考」

佐々木 晃（鳴門教育大学附属幼稚園）

本園では平成23年度から25年度まで「科学的思考を促す幼小接続教育課程開発」を行った。科学的思考という認知的な側面から、教育課程や指導計画、さらには評価要素表の開発を行う過程では、認知的能力と好奇心や探求心、集中力や自己肯定感、根気強さや人間関係調整力などの協同的な学びを生み出す能力などのいわゆる「非認知的能力」が相互に関連し合って発達していることが明らかになった。そこで、「科学するところ（サイエンス）」「科学する力（テクノロジー）」「協同的感性」を幼児期の科学的思考を支える軸として提案した。以上の経緯から、今回の「非認知的能力」の研究にあたっては、本園のデータベースの事例を活用し、「科学する力」が「科学する心」や「協同的感性」とどのような相互作用の中で育成されていくのか、また、その特徴的な要素は何かを分析するとともに、それらの発達の様相を考察している。

現在、事例分析の途中であるが、次のようなことが分かってきた。共同の場や空間の中で協働する必要感や必然性が生じると、自発的に遊びの課題や自分たちなりの目標、それに必要な技術の獲得といったものに向かっていく意欲が強い傾向がある。次第に課題意識が高まると達成感も強まるとともに、次なる目的や課題がうまれて、協同して取り組む過程で役割や技術、知識なども組織化や構造化、複雑化が進む様子が見られ、集中力や持続力も高まっていく。3歳児の事例では安心感や信頼感によって発揮される共鳴・共感力や好奇心・探究心・応答力が多く見られた。4歳児は、さらに肯定的な応答や協働の中で観察力が働き、予測したり目標をはっきりさせたり、仲間との関係の中で自己主張したりする姿がよくみられた。5歳児は、これらに加えて駆け引きやユーモア、「乗り、突っ込み、盛り上げ」力、距離感などが協同的感性を発揮させ、科学的思考を高めていた。